

北海道農業の基幹作物てん菜の生産を守ることを求める意見書

てん菜は、北海道農業の基幹作物として重要な役割を果たしている。北海道のてん菜糖は、国産砂糖の8割を占め、砂糖の自給率40%を支えている。

国産砂糖生産は、輸入粗糖、輸入加糖調製品に課する調整金と国費を財源とする糖価調整制度で、てん菜生産者、製糖事業者への交付金等で生産振興が図られ、交付金対象数量として、てん菜産糖量64万トンを枠としている。

輸入調整金収支の赤字を理由に、産糖量64万トン枠を削減する動きが強まっており、てん菜生産者と地域経済にとって大きな問題になっている。

世界的な食糧危機、食料高騰の中、輸入に依存した食に不安が広がっている。砂糖の輸入を減らし、国産砂糖を守り本腰を入れて食料自給率を引き上げる政策に転換することが必要である。

よって、次の対策を強く要望する。

記

- 1 食料の安定供給、食料自給率を引き上げるために、てん菜生産への支援を強めること。
- 2 製糖事業者への支援を強めること。
- 3 国の責任で輸入調整金の収支の改善を図ること。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき意見書を提出する。

令和4年6月20日

北海道遠軽町議会

提出先 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、外務大臣、財務大臣、農林水産大臣